

令和6年度 浦添市上下水道料金等審議会(第2回) 議事要旨

場 所	浦添市上下水道庁舎3階会議室			
日 時	令和6年8月28日(水) 14:00 ~ 16:45			
提示資料	会次第、水道事業及び下水道事業経営戦略説明資料ほか			
出席者(出席数 6人、欠席数 0人)				
委 員	平敷 徹男(会長)	○	照屋 冴子	○
	秋田 繁一(副会長)	○	平良 秀樹	○
	石川 仁孝	○	譜久原 みどり	○
事 務 局	上下水道部長、経営企画室長、水道総務課長、営業課長、工務課長、 工務課長補佐、経営企画室職員、工務課職員			

議 事	
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水道事業経営戦略について(1/2) 2. 下水道事業経営戦略について(1/2)

【議事に対する質疑応答及び意見の概要】

[事務局]	議事の説明 1. 水道事業経営戦略について(1/2)
[委員]	・法定耐用年数を超えた管路から更新事業を進める必要があるのか。 法定耐用年数に義務的な要素はあるのか。
[事務局]	・法定耐用年数は考慮するが、年数にこだわらず長寿命化という視点もあり、財源とのバランスも考えて対応していく。 管路の法定耐用年数が40年とあるが、1.5倍、1.2倍として長寿命化を検討しながら、整備を進めていこうと考えている。 法定耐用年数の設定に関しては各事業体の裁量になる。
[委員]	・漏水調査は実際に漏水が起きたものを調査するというより、まだ発生していないところで漏水調査が行われたりするのか。 漏水調査には予防的な機能があるのか。
[事務局]	・浦添市は配水ブロックを51区画にブロック化している。ブロックごとに水量を毎日のように確認しながら、変化が激しいところは調査に入り、いち早く漏水に対応している。漏水があった箇所は、その近くが今後も漏水が発生する可能性があり予防的な機能もある。
[委員]	・本日、説明している経営戦略は、この委員会で承認されたものがそのままとめられるということか。
[事務局]	・本編の方も作成している。本編の中から今回抜粋して説明しているが、この中のものがすべて反映されるかはこれから検討していく。
[委員]	・今回の資料で、問題点などが記載されているが、この経営戦略の中で問題点に対する対応策が表現されるのか。
[事務局]	・すべての懸案事項が反映されるかは確定ではない。予算的に対応できることについては、次回の審議会で検討していく予定である。
[委員]	・資料2の32頁で土地区画整理事業の進捗次第で代替事業を実施するとあるが、具体的に教えて頂きたい。
[事務局]	・土地区画整理事業を進めるうえで、新設の管路を敷設する必要がある。 土地区画整理事業には多くの工事が絡むので、その進捗次第では間接工

	<p>事に遅れが生じる。遅れた場合に更新事業にあたるとういうように柔軟に対応するということ。</p> <p>これまでは新設工事を主に進めており、更新工事が遅れ気味であった。これからは更新事業についても急務になっているので、財源を充てて進めたいと考えている。</p>
[委員]	<p>・浦添市の管路更新率が0.5%前後ですべて更新するのに200年かかるとあるが、予算の関係なのか。</p>
[事務局]	<p>・予算の関係もあるが、人員も足りていない。</p>
[委員]	<p>・老朽化の恐れがある管路は前もって更新する対応が必要ではないかと気になる。</p>
[事務局]	<p>・材質を変えて、漏水がしにくい鋳鉄管や塩ビ管等を敷設している。</p>
[委員]	<p>・米軍施設内の水道工事も行っているのか。</p>
[事務局]	<p>・米軍については浦添市の方から水を供給しているが、基地内の管路の状況については一切わからない。</p>
[委員]	<p>・毎年、1から1.5億円くらいはキャッシュが溜まっているということか。</p>
[事務局]	<p>・そうです。</p>
[委員]	<p>・老朽化している箇所について、更新の優先順位は決まっているのか。</p>
[事務局]	<p>・管路については耐用年数40年が目安である。目安はあるが、それよりも必要な箇所があれば先に更新を行うこともある。</p>
[委員]	<p>・浦添市より管路敷設が古い市町村をモデルケースにして、改善していくということもあるのか。他市町村も同じような課題を持っているのではないのか。給水量や有収量の差は漏水が影響していそうだが、各自治体とも同じようなデータがありそうだがどうか。</p>
[事務局]	<p>・有収率についていえば浦添市が95%前後で、どこの市町村も同じような数値で推移している。管路の総延長も長いので、有収率を1%あげるのは努力しているがかなり大変である。漏水は直したら次が出てくる状況で毎年やっている。</p>
[委員]	<p>・漏水は管路の老朽化に伴うものが多いのか。</p>
[事務局]	<p>・老朽化が多く、管路のつなぎ目からもある。</p>

[委員]	・漏水が始まると年数的に近い他の管路が連鎖的に漏水を起こすのか。
[事務局]	・そのようなことは往々にある。
[委員]	・資料の中で基地の給水収益が年々減少しているとあるが、これはどういうことか。
[事務局]	・担当者レベルで確認したところ、基地の機能的には変わらないが、給食センターのようなものが中部に移転した、洗管を控えていたという話も聞いている。基地内の話なので詳細には把握できていない。
[委員]	・資料2の47から48頁の収支計画における各項目の設定方法について、人件費は令和5年度決算値とするとあるが、先ほどマンパワーが足りないという話もあった。人件費についてはこの設定で問題ないのか。
[事務局]	・人事の定数ヒアリングがあるが、なかなか要望が通らない。人件費を決算値としている理由としては、見込めない人数を計算に入れるのは正しくないのではないかと判断である。年配の方が来たり若い方が来たりというような動きもあり詳細に見込めないということもある。
[委員]	・予算面もさることながら、マンパワー不足で動きが取れないということが気になった。

[事務局]	議事の説明 2. 下水道事業経営戦略について(1/2)
[委員]	・資料3の20頁の処理区域内人口について、南城市の数値がかなり低いのが、南城市にとって負担が少なく良いことか。
[事務局]	・良いということです。
[委員]	・他自治体との情報交換や課題について話し合う機会はあるのか。
[事務局]	・水道事業も下水道事業も、県内の自治体や中部市町村の集まりといった、勉強会が年に数回ある。
[委員]	・資料3の18頁について、数値が高ければ良いのか。
[事務局]	・1以上であれば、使用料収入の1年分があるという指標になっている。
[委員]	・資料3の18頁について、南城市の数値が高くなっているが地域性がある

	のか、職員の努力であれば何か参考になるような取り組みはないのかと思った。
[委員]	・資料3の21頁で企業債とは借り入れのことか。どこから借り入れているのか。
[事務局]	・国の財政融資資金と地方公共団体金融機構の地方公共団体金融機構資金の2か所から借り入れを行っている。
[委員]	・償還額は年間の支払額か。
[事務局]	・年間の支払額です。
[委員]	・現在は企業債の残高が45億円あるということか。
[事務局]	・その通りです。
[委員]	・毎年、企業債を借りないといけない状況なのか。
[事務局]	・そうです。
[委員]	・物価上昇率を2%で設定しているが、近年の上昇率からして2%の設定で問題ないのか。
[事務局]	・将来の物価上昇率が見とおせないということで直近3年間の平均をとった。また、国の諮問会議で出されている最新の情報も2%としているので、今回は2%を採用した。

以上